



もじみや
元宮の森／元宮の榎と櫓かしけやき

阿蘇市教育委員会

学芸員 宮本利邦

■元宮の森

今回は、旧阿蘇町赤水の元宮地区にある元宮の榎と櫓を紹介します。

元宮の榎と櫓のある森は、国道57号を挟んで旧永水小学校（現エム・テックニク阿蘇工場）の南側で、国道から100mほどの山中にあります。



▲元宮の森に生える榎(左側)と櫓(右側)

元宮の森は、赤水地区を覆っている通称「赤水溶岩」が形成した馬蹄状の窪地の中にあり、この森の中に榎と櫓の巨木が対を成すようにひっそりと立っています。昭和52年1月20日に町の天然記念物に指定されました。

■御前迎え出発の地

元宮の森の北側にある宮山集落みややまには、阿蘇に春を告げる祭りとして有名な田作り祭で火振り神事が行われる御前迎えが始まる吉松神社があります。

御前迎えとは、阿蘇神社十二神の内の国龍神くにたつのみこと（彦八井耳命ひこやいのみみのかみ・健磐龍命たけいわたのみことの叔父で草部吉見神くさべよしみのかみともいう）が妃となる比咩御前ひめみづみ（姫神）を迎える結婚の儀式です。（詳細は

一の宮町史11『神々と祭の姿』佐藤征子著を参照ください）

吉松神社では、榎の木をもって比咩御前の御神体をつくる神事を行います。比咩御前の御神体は、榎山の林で目かくしをした神官が手に触れた榎の木を選ぶもので、一連の御神体づくりは神社の神殿内で行われる「秘事」とされています。江戸時代の諸記録によれば、御神体を選ぶ榎山は「鷹山たかやま」との記載がみられ、その場所こそ現在の元宮の森がある一帯です。

■古き社の跡

地元では、比咩御前のお発する社は本来元宮の森にあったと伝承されています。そのため「元宮」の地名で現在も呼ばれていますが、その



▶御前迎えの様子。嫁入り道中、吉松神社を出発し阿蘇神社までの道のりを行列。（写真は浜神社付近）



▶別府大学による調査の様子

実態は永らく分かりませんでした。しかし、平成20年3月に実施された別府大学文化財研究所の学術調査によって、榎と櫓がある窪地内にかつての「元宮」神社の跡と思われる礎石や石組の痕跡が確認されました。出土した陶磁器の破片などから、少なくとも江戸時代中頃のものとして推測されています。



▲現在の吉松神社

発見された礎石の規模と配置は、現在の吉松神社とほぼ同じもので、「元宮」神社と吉松神社のつながりが想像されます。

今回紹介した榎と櫓の巨木は社殿跡の奥に位置しており、「元宮」神社の御神木として崇拝されていたと思われ、またその巨大さが信仰の古さを物語ります。